

おはようございます。明けましておめでとうございます。

新年明けたところですが、正月にこんな言葉を聞きました。「人生の成功とは、子どものころの夢を追い続けること」という言葉に出会いました。

新年早々ですので、先生の夢の話をします。笑わずに聞いてください。

小学2年生のときに野球を始めました。読売巨人軍がちょうど9年連続日本一になっている頃で、王貞治や長嶋茂雄に憧れた時期です。

初めて描いた将来の夢は、プロ野球選手になることでした。小学校時代は野球ばかりずっとやってきまして、四番でショート、この辺の地域では一番上手だったのですが、プロ野球の選手にはなれませんでした。

冬は一生懸命ミニバスケットボールに取り組んで、バスケットボールでは、先輩が、全国大会や近畿大会に出るようなチームだったのですが、先生の年代は県予選で負けてしまいました。

中学校に入ったときは、野球部ありませんでした。バスケットボール部もありませんでした。ということで、違う部に入ったのですが、当時、この大東中学校で、一番厳しかった陸上競技部の門をたたくことにしました。

先生の先輩には、日本一になった選手も何人もいましたし、日本中学記録を作った先輩も当時2人いました。先生の2つ下の後輩にも日本一になった選手がいました。先生はそこまではなれませんでした。滋賀県では負けたことがありませんでしたし、中学時代に、全国大会にも3回出場しました。リレーでは、県中学記録も作りました。ただ、その頃の自分自身、日本一の夢を口に出すことは恥ずかしかったです。言えませんでした。

私が中学時代を過ごした大東中学校は、当時何と、夏季総体で9年連続男女総合優勝をしていました。先生が3年生の時に、10連覇がかかっていたのですが、先生の学年は、秋も春も夏も2位で優勝できませんでした。2位でもすごいのですが、当時負けたことの方がずっと印象に残って、9連覇で終わってしまったという、申し訳ない気持ちでずっといました。

「陸上日本一」については口には恥ずかしくて出せませんでしたが、将来のことをその頃考え始めていました。ちょうど君たち3年生と同じ時期です。おぼろげに将来教師になろうかな思ったのがちょうど中学校3年生の時です。

テレビの影響も大きかったです。当時、テレビで学校を描いたものが非常に多く、今から思うと、日本中の多くの学校が中学校も高等学校も言葉は悪いですが荒れていて、校内暴力という言葉が流行った時代でそういうことを描いたドラマが非常に多く、先生はそれに影響を受けて、そういう先生になろうかなと思ったのが中学時代です。熱血教師という言葉が流行りまして、先生は熱血教師になろうと思って、高校、大学で勉強して教師になりました。

勤めた学校が、まさに校内暴力で荒れ狂う学校に、1年目に勤めさせてもらいました。自分の出番だと思い、22歳の時にがんばったのですが、校内暴力で荒れ狂う学校でしたので、先生はそれに巻き込まれました。熱血教師を演じていました。1年生の担任をしていましたが、暴れる2年生、3年生の指導も同時にやっていたら、事件が起きました。5月です。

暴れている3年生の生徒が15人、昼休みに先生を囲んで、そのうち3人が金属バットをもっていました。その後の話の詳細は省略しますが、その暴力に巻き込まれて、先生は教師1年目の時に

生徒から暴行を受けて、病院へ行き、警察へ行き、そういう時を22歳の5月に過ごしました。その時に決意したことがあって、自分の目の前にいる生徒は、全てこれから守ろうということが、自分の夢、目標になりました。とにかく横道に逸らさずに、真っすぐとは言えないまでも、成長してほしいという気持ちをもって、この後、教師生活をずっと過ごしてきました。

先生は学生時代ずっと陸上競技をやっていましたが、その学校で7年間野球部の顧問をしました。先生は、プロ野球選手になりたいという夢をもっていました。叶いませんでした。野球部の顧問をしていて、その後、教え子の2人がプロ野球選手になってくれました。自分の子どもの頃の夢は叶いませんでしたが、私の夢を引き継いでくれたような感覚があります。

その学校は非常に厳しい学校でしたが7年間くらいかかったら、学校が今の大東中のように立て直りました。中学生というのはすごい可能性があります。そういう時期だということを生徒から学んだ時期でもありました。考えてみれば、教師になった時に、3年生の生徒は多くが部室でタバコを吸って、それを引っ張り出してきて、指導して走らせてということをずっとやっていました。さきほどの暴力事件もしかりですが、何と、可能性という言葉で言うと、先生が勤め始めてから8年後に、その暴れていた野球部が、近畿大会、全国大会まで出場するそんな野球部になっていました。さっきも言いましたが、中学生というのは1つ間違えれば大きく可能性をつぶす時期でもあるけれど、きちっと頑張れば、大きな可能性がどんどん生まれてくる時期だということを自分の体験からというか、生徒から学んだ時期でした。

その頃、おぼろげに覚えているのですが、ちょうど1年生の担任をしていまして、生徒の前で「先生の将来の夢は？」と聞かれたときに、「将来は学校を作って、本を書く。」ということを生徒の前で言いたいです。後々の同窓会で言われました。自分の学校を作って本を書く。自分の学校を作って目の前の生徒を全員幸せにする。本を作って、自分の後に続く、先生を育てる。というようなことを、7年目にしゃべりました。

次に2校目に赴任したのがこの大東中学校です。そして念願の陸上競技部の顧問になれました。最初の3、4年は県で総合優勝なんてできませんでしたが、5年目から連続で勝たせてもらって、滋賀県の総体では7回男女総合優勝を体験させてもらいました。男子総合優勝だけなら11回関わりました。

18年間、陸上競技の指導をしました。近畿総体は、毎年出場する選手を育てることができて、終わって振り返れば、先生は走幅跳が専門だったのですが、近畿大会においては、100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、ハードル、走高跳、走幅跳、棒高跳、三段跳、砲丸投、円盤投、混成競技は3種競技、4種競技、リレー、リレーも4×200m時代も4×100m時代も、自分で終わった時に気づいたんですが、すべての種目で近畿大会以上に出場する選手を育てることができました。

その後、日本一も経験させてもらいました。自分は中学時代、日本一という夢は語れませんでした。自分の教え子が日本一になってくれたり、自分は9年連続の総合優勝の連続記録を止めた学年という後ろめたさがありましたが、自分の教え子が7回総合優勝してくれました。私は、自分の描いた夢は実現できなかったことも多かったのですが、自分の夢を代わりに教え子が果たしてくれたこともあって、違う意味でよい経験をさせてもらったなと思いました。

年を取ったから思うのかもしれませんが、夢を見たからこそ成長できたのではないかなということを、今は思っています。ちっぽけな本ですが3冊作りました。学校は作れませんでした。今年4冊目を作ろうと思って、今、自分の思いを文字にしながら進まないで苦しんでいるんですが、やり遂げようかなと思っています。

ここから、君たちに言いたいんですが、夢はたとえ叶わなくても、一生懸命頑張っていれば、それを時には受け継いでくれる人もいます。夢は、叶えるものかも知れませんが、同時に人につないでいくものであったり、つながっていくものかもしれません。

どうか、生徒の皆さん、夢を見てほしいなと思います。夢を見ることを怖がる必要はありません。たとえ、叶わなくても、それに向けて努力したその足跡は、自分自身の未来を作ってくれると思います。

今年も言いたいと思います。

好きなことをとことんがんばりなさい、得意なことをどんどん伸ばしなさい、興味あることにどんどんチャレンジしなさい。

人生は、長くもあり、短くもある。今をひたすら頑張ってもらいたいと思います。一生懸命頑張れる自分を、ただただ、信じて頑張ってもらいたいと思います。

最後に、私の現在の夢を言います。

この学校を、この学校に通うすべての生徒が、大きく成長する、そして年をとっても、50になっても60になっても、大東中学校で学んでよかったなあ、と言える学校にしていきたいなと思います。

君たちが夢をもち、自分の夢と目標に向けて、頑張ってくれることを期待しています。今年もよろしくお願いします。共に頑張りましょう。一緒に頑張りましょう。